

単元名：跳び箱運動 ～ コツを見付けよう ～

【単元の概要】

跳び箱運動の開脚跳び、大きな開脚跳び、かかえ込み跳び、台上前転に取り組む授業の中でICTを使って、技のポイント見付け（コツ見付け）を行う単元を設定した。まず始めに、児童はパソコンやタブレットの模範演技の映像を見て、技のポイント（コツ）を見付けるようにする。次に、児童同士で教え合い学び合いをしながら技のポイント（コツ）を確かめるようにする。最後に、考えたポイントが正しかったかどうか、どのような場で確かめたか、友達との教え合い学び合いを生かしてどのようにコツ見付けができたか等を振り返るようにする。

■単元の目標

- 基本的な支持跳び越し技に取り組み、自己の能力に適した技ができるようにする。
- きまりを守り、友だちと教え合い学び合う活動を通して運動に進んで取り組んだり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- 課題発見・解決しながら取り組むことで、基本的な動き方や技のポイントを知ることができるようにする。

■単元計画（全6時間）

○1時

跳び箱運動の学習の進め方を知り、友だちと協力して進んで取り組む。

○2, 3時

開脚跳び、大きな開脚跳び、かかえ込み跳びの技のポイントを決め、友だちと教え合い学び合うことで、技のポイントを確かめる。（ICT使用）

【課題の設定】模範演技の映像を見て、技のポイントを見付ける。

【情報の収集、整理・分析】【まとめ・創造・表現】見付けた技のポイントを確かめる。

【実行、振り返り】技のポイントを見付けについて振り返る。

○4, 5時

台上前転の技のポイントを決め、友だちと教え合い学び合うことで、技のポイントを確かめる。（ICT使用）

【課題の設定】模範演技の映像を見て、技のポイントを見付ける。

【情報の収集、整理・分析】【まとめ・創造・表現】見付けた技のポイントを確かめる。

【実行、振り返り】技のポイントを見付けについて振り返る。

○6時

これまでに学習した跳び方を生かし、発表会をする。

■実践と振り返り

- 児童はICTを使って、技のポイントを見付け、友達と教え合い学び合いながら技のポイントを確かめ、ふり返しを行うことができた。また、技ができるようになった児童が増えた。
- 児童が技のポイントを見付けるとき、体の部位（頭、腰、膝、足など）をどうなっているか、見る視点を与えるようにすると、コツ見付けがやりやすいようであった。
- 台上前転は、手を手前につかなければ、怪我につながることを授業の始めに指導し、その他の「おへそを見る」「背中を丸める」「頭の後ろをつく」などのコツを見付けさせるようにした。
- ICTを使うことで、何度も簡単に、繰り返し模範演技を見ることができ、課題を発見することが容易であったり、解決するときにも役に立ったりした。

